

平成 28 年 9 月 6 日

広島県知事 湯崎 英彦 様

広島県空港振興協議会
空港活性化部会
部会長 廣田 亨

広島空港の将来像と今後の運営のあり方について（提言）

当部会では、これまで5回の会議を通じて、広島空港の現状、訪日インバウンド市場や国内LCC市場の拡大を背景とした空港間競争の激化など、空港を取り巻く環境変化を踏まえ、「広島空港の将来像と今後の運営のあり方」について議論を行い、県への提言として取りまとめた。

広島空港が、中四国における拠点空港として引続き発展するためには、地域と空港運営者が理念を共有して空港活性化に取り組むことが必須であり、その手段として、地域の意向を十分にスキームに反映させたうえで、国の推進する空港経営改革を活用していくことが非常に有効と考えられる。

このため、県においては、早期の空港経営改革の導入を視野に、国等の関係者との調整に着手するなど、導入に向けた取組を進めていくことを提言したい。

また、空港アクセスやインバウンド需要の創出など、運営主体に関わらず県が主導して取り組むべき課題については、空港経営改革を待つことなく着実に進めていくことを合わせて提言する。

なお、空港活性化は、地域の関係者のバックアップなしには実現出来ないものであり、空港経営改革の導入に際しては、そのプロセスも含めて、空港活性化部会のような組織体をもって、県民、関係する自治体、経済界などとの対話を並行して進めながら、真に地域活性化に資する空港経営改革の実現をお願いしたい。